

みずほマーケット・トピック(2019 年 8 月 9 日)

週末版

内容 1. 為替相場の動向

2. 来週の注目材料

※誠に恐れ入りますが、「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。

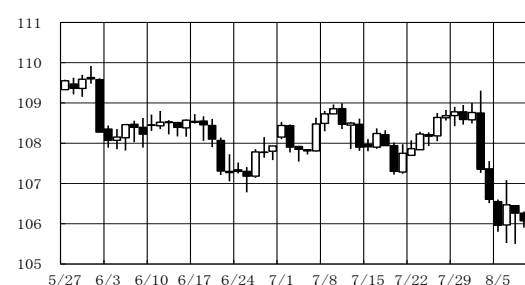
1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- 今週のドル/円相場は揉み合い推移。週初 5 日、106 円台半ばでオープンしたドル/円は、ドル/人民元が 7.0 を超える人民元安となったことを受けて中国景気への懸念が高まる中、105 円台後半まで下落。その後は対中追加関税への懸念が燃える中、ドル/円は 106 円近辺で揉み合い推移となった。翌 6 日には、米財務省が中国を為替操作国に認定すると発表したことを受けて、ドル/円は 105 円台半ばまで急落したが、実需の買いなどから反発し、106 円台半ばを超えるとストップを巻き込みながら一時週高値となる 107.11 円をつけた。しかし、買いは続かず 106 円台半ばまで弱含み、7 日は人民元がじり安となるとドル/円も 105 円台後半まで下落。その後、NY ダウ平均の大幅下落や米金利低下、更にはトランプ米大統領の速やかに大幅な利下げを行うべきだとの発言等を受けて、ドル/円は一時週安値となる 105.50 円をつけた。しかし米 10 年債入札が不調となると米金利が低下幅を縮小し、ドル/円は 106 円台前半まで回復した。8 日は、米金利上昇や NY ダウ先物平均の上昇を背景にドル/円は 106 円台前半まで買い進められるも、米金利が下げに転じると 105 円台後半まで押し戻された。本日のドル/円は 106 円近辺で底堅い値動きとなっている。
- 今週のユーロ/ドル相場は上昇する展開。週初 5 日に 1.11 台前半でオープンしたユーロ/ドルは、一時週安値となる 1.1103 をつけるも、米金利低下を受けたユーロの買い戻しやユーロ/ボンドの買いに 1.11 台後半まで上昇。6 日にかけてもユーロ買い優勢地合いが継続する中、ユーロ/ドルは一時週高値となる 1.1249 まで値を上げたが、その後は新規材料難な中、1.12 台近辺で方向感に乏しい推移となった。7 日は欧州金利の低下を背景に、ユーロ/ドルは 1.11 台後半まで下落したが、その後は米金利低下を受けたドル売りに 1.12 台近辺まで強含んだ。翌 8 日は「ドイツ政府が均衡予算を断念し、新たに政府債発行を検討」との報道(当局が後に否定)や上述したトランプ大統領の発言を受けたドル売りにユーロ/ドルは 1.12 台前半まで上昇する場面が見られたが、サルビーニ伊副首相が「総選挙が必要になる」と発言したことからイタリア政局不安が強まり、ユーロ/ドルは 1.11 台後半まで売られた。本日のユーロ/ドルは 1.11 台後半で動意に乏しく推移している。

今週のおもな金融市場動向(出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

ドル/円相場の動向

		前週末	今 週				
		8/2(Fri)	8/5(Mon)	8/6(Tue)	8/7(Wed)	8/8(Thu)	
ドル/円	東京9:00	107.44	106.57	105.62	106.33	106.12	
	High	107.56	106.68	107.11	106.46	106.32	
	Low	106.51	105.79	105.52	105.50	105.90	
	NY 17:00	106.61	105.96	106.47	106.26	106.07	
ユーロ/ドル	東京9:00	1.1080	1.1107	1.1242	1.1206	1.1204	
	High	1.1116	1.1213	1.1249	1.1242	1.1233	
	Low	1.1070	1.1103	1.1168	1.1177	1.1177	
	NY 17:00	1.1107	1.1203	1.1202	1.1199	1.1180	
ユーロ/円	東京9:00	119.03	118.38	118.76	119.12	118.91	
	High	119.12	118.93	119.88	119.27	119.16	
	Low	118.27	117.68	118.38	118.46	118.50	
	NY 17:00	118.35	118.73	119.31	119.01	118.57	
日経平均株価		21,087.16	20,720.29	20,585.31	20,516.56	20,593.35	
TOPIX		1,533.46	1,505.88	1,499.23	1,499.93	1,498.66	
NYダウ工業株30種平均		26,485.01	25,717.74	26,029.52	26,007.07	26,378.19	
NASDAQ		8,004.07	7,726.04	7,833.27	7,862.83	8,039.16	
日本10年債		-0.17%	-0.19%	-0.19%	-0.20%	-0.19%	
米国10年債		1.84%	1.72%	1.72%	1.72%	1.72%	
原油価格(WTI)		55.66	54.69	53.63	51.09	52.54	
金(NY)		14,570.50	1,476.50	1,484.20	1,519.60	1,509.50	



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- ・米国では、今晚に7月生産者物価指数(PPI)、週明け12日(月)には7月消費者物価指数(CPI)の発表がある。コアPPIは前月比+0.2%(6月:同0.0)と上昇ペースが早まり、エネルギーによる押し上げと食品による押し下げはほぼ相殺するとみられる中、総合PPIは同+0.2%(6月:同+0.1%)に加速すると予測されている。総合CPIも前月比+0.3%と6月の同+0.2から加速する一方、コアCPIは同+0.2%(6月:同+0.3)と小幅に鈍化する見通しだ。15日(木)には7月小売売上高の発表もあり、前月比+0.2%(6月:同+0.4%)と伸びが鈍化する見通しである。7月の自動車販売台数は前月比▲2.8%(6月:同0.0%)と減少しており、小売売上高の自動車部分も減少したとみられる。ガソリンスタンドの売上高は小幅な持ち直しにとどまりそうであり、前月に高めの伸びとなった自動車とガソリンを除く小売売上高は同+0.4%(6月:同+0.7%)と減速が見込まれている。
- ・本邦では、13日(火)に6月第3次産業活動指数の発表があり、市場では前月比▲0.1%と予想されている。既に発表されている6月の消費関連統計を確認すると、商業動態統計では卸売販売額が前月比+0.8%(5月:同▲1.5%)と小幅な持ち直しにとどまり、小売販売額は同0.0%(5月:同+0.4%)となった。このほか、チェーンストア販売額や百貨店売上高は増加に転じたものの、乗用車販売台数(普通乗用車と軽乗用車の合計)が前月比▲7.8%(5月:同+1.5%)と3か月ぶりに減少している(みずほ銀行による季節調整値)。翌14日(水)には6月コア機械受注(船舶・電力を除く民需)が発表される。6月工作機械受注(みずほ銀行による季節調整値)が前月比▲13.8%と大幅に下振れ、10か月連続で減少する中、市場では機械受注も同▲1.0%と減少すると予測されている。6月が予想通りとなった場合、4～6月期は前期比+2.5%と3四半期ぶりの増加となるものの、機械受注見通し(同+15.7%)を大きく下振れる結果となる。

	本 邦	海 外
8月9日(金)	-----	・米7月生産者物価
12日(月)	休 場(振替休日)	・米7月財政収支
13日(火)	・7月国内企業物価 ・6月第3次産業活動指数	・米7月消費者物価 ・独8月ZEW景況感指数
14日(水)	・6月機械受注	-----
15日(木)	・6月鉱工業生産(確報)	・米8月ニューヨーク連銀製造業景気指数 ・米4～6月期労働生産性(速報) ・米8月フィラデルフィア連銀製造業景気指数 ・米7月小売売上高 ・米7月鉱工業生産 ・米8月消費者信頼感指数 ・米6月企業在庫 ・米6月TICレポート(対外対内証券投資)
16日(金)	-----	・米7月住宅着工件数 ・米8月ミシガン大学消費者マインド指数(速報)

【当面の主要行事日程(2019年8月～)】

G7 サミット(8月24～26日、仏ビアリッツ)
ECB 政策理事会(9月12日、10月24日、12月12日)
米FOMC(9月17～18日、10月29～30日、12月10～11日)
日銀金融政策決定会合(9月18～19日、10月30～31日、12月18～19日)

国際為替部
チーフマーケット・エコノミスト
唐鎌 大輔(TEL:03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2019年8月6日	遂に突破した「1ドル=7.0円」～対抗措置としての元安～
2019年8月5日	米7月雇用統計を受けて～趨勢的な鈍化は明らか～
2019年8月2日	週末版(何の意味もなかったパウエル議長の失言～トランプ関税とインフレ停滞も利下げの理由に～)
2019年8月1日	FOMCを終えて～「1歩譲れば100歩求める」～
2019年7月31日	日銀金融政策決定会合～流行りの「予防的緩和」～
2019年7月30日	円安リスクの点検～英の再国民投票復活などがリスク～
2019年7月29日	ECB政策理事会レビュー～見どころの整理～
2019年7月26日	週末版
2019年7月25日	リブラと金融政策～新興国と信用創造に対する影響～
2019年7月24日	「利下げに囲まれる日銀」と「通貨政策化が進む世界」 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2019年6月分)
2019年7月22日	ECB政策理事会プレビュー～「目標見直し」は大事業～
2019年7月19日	週末版(実質実効為替相場の現状と展望～「ドルは過大評価」とのIMF評価を受けて～)
2019年7月18日	本邦家計部門の金融リテラシーは低いのか？
2019年7月17日	欧米貿易摩擦こそ正当な貿易摩擦という考え方
2019年7月16日	株価を見なくなったドル/円相場と追い込まれる日銀
2019年7月12日	週末版
2019年7月5日	週末版
2019年7月3日	ラガルドECB総裁就任の読み方
2019年7月2日	日銀短観の読み方～「底入れ」は確認できず～
2019年7月1日	大阪G20を終えて～円相場を駆動するのは株価ではなく金利～
2019年6月28日	週末版
2019年6月26日	円安リスクの点検～大統領選前にトランプは動くか～
2019年6月25日	対外資産・負債残高の近況～令和で経験する大きな変化～
2019年6月24日	利下げ期待とドル/円相場の関係～「98年型利下げ」としても～
2019年6月21日	週末版(日銀金融政策決定会合を終えて～「ドル高の修正」という大きな潮流～)
2019年6月20日	FOMCを終えて～「鏡に映った自分」に怒り続ける大統領～ 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2019年5月分)
2019年6月19日	為替市場と金利市場の期待格差について
2019年6月14日	週末版(日銀金融政策決定会合プレビュー～サプライズがあるとすれば・・・～)
2019年6月13日	厳しい緩和競争が予想される日欧中銀
2019年6月12日	FRBと金融市場の「接待関係」は持続可能なのか？
2019年6月11日	ユーロ高を警戒し始めたECB～通貨安欲しさに利下げ？～
2019年6月10日	利下げを促す米雇用・賃金情勢～6月利下げも？～
2019年6月7日	週末版(ECB政策理事会を終えて～シントラから2年で振り出しに戻ったECB～)
2019年6月6日	次のカタリストとしての中国の外貨準備
2019年6月5日	虚しい「フォワードルッキングな政策運営」
2019年6月4日	ECB政策理事会プレビュー～TLTRO3詳細発表～
2019年6月3日	「利下げタイミングを当てるゲーム」が始まりそう
2019年5月31日	週末版
2019年5月29日	米為替政策報告書を受けて～ドル高への不満も～
2019年5月28日	円安リスクの点検～円高リスク高まった5月～
2019年5月27日	ECB政策理事会議事要旨～衰える基本シナリオの信認～
2019年5月24日	週末版
2019年5月23日	プレジデントQ&A～メイ辞任、再国民投票、勝負の6月～
2019年5月22日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2019年4月分)
2019年5月21日	ユーロ相場の需給と「ドルしか買えない」状況
2019年5月20日	「1ドル=7.00」の攻防再び
2019年5月17日	週末版(円相場の需給環境について～建値通貨別でユーロ建て証券投資が過去最大に～)
2019年5月15日	景気動向指数の「悪化」判断と増税の先行きについて
2019年5月14日	関税引き上げと通貨安～元安対抗にも限界あり～
2019年5月13日	米中協議は実質決裂～～舞台は大阪G20へ？～
2019年5月10日	週末版(「中央銀行の独立性」とトランプの口先介入～「失言」と割り切って良いのか？～)
2019年5月9日	「相応の理由」なき投機のドル買いはいつまで続くか
2019年5月7日	追加関税騒動について～半年間の努力はどこへ～
2019年4月26日	週末版
2019年4月24日	薄氷のドル高相場～賭けるべき「次の一手」は～
2019年4月23日	10連休を契機に考える休日増加の功罪 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2019年3月分)
2019年4月22日	円安リスクの点検～年後半は「米国 vs. 欧中」～
2019年4月19日	週末版(ユーロ圏PMIを受けて～「底打ち」しても正常化は別の話～)
2019年4月18日	ドル高を容認できない中国の経常収支
2019年4月17日	相次ぐECBの「次の一手」に関するヒント
2019年4月16日	「改善の極み」を指摘したIMF～循環的なピーク～
2019年4月15日	ECB政策理事会～階層化とTLTRO3の取り扱い～
2019年4月12日	週末版(やはり直面した「欧州らしい結末」～臨時EU首脳会議を受けて～)
2019年4月10日	IMF世界経済見通し～「副題」で見る世界経済の変遷～
2019年4月9日	円相場の基礎的需給環境～「均衡」がもたらすレンジ～
2019年4月8日	プレジデント情勢を巡るQ&A～臨時首脳会議を前に～
2019年4月5日	週末版(ドイツがけん引するユーロ圏の減速～大崩れしたドイツ製造業受注～)
2019年4月4日	外貨準備構成通貨の現状(18年12月末)
2019年4月3日	ECBはマイナス金利を階層化するのか？
2019年4月2日	円高を阻む経常収支構造の変化
2019年4月1日	「恵まれた為替環境」を再確認した内閣府調査
2019年3月29日	週末版
2019年3月26日	円安リスクの点検～敢えて考える円安リスク～
2019年3月25日	「自分の尾を追う犬」となったFRBと景気後退の考え方
2019年3月22日	週末版(コミュニケーションが荒れ始めたFRB～本末転倒感の拭えないドットチャート～)
2019年3月20日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2019年2月分)
2019年3月18日	「ユーロ圏の日本化」の正しい読み方
2019年3月15日	週末版(プレジデント交渉、当面の読み方～人質戦略は奏功するのか？～)
2019年3月14日	「地方の南欧化」を想起させる業種別一律最低賃金
2019年3月13日	プレジデント、「2度目の否決」と「新たな期限」
2019年3月12日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2019年1月分) 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2018年12月分)
2019年3月8日	週末版(ECB政策理事会を終えて～ドラギ総裁は1度も利上げできずに退任～)
2019年3月5日	米金利上昇&ドル高を阻む「ドル化した世界」
2019年3月4日	大統領のドル高けん制～不安な「相手国が悪い」という理屈～
2019年3月1日	週末版(金融政策格差に落ち着いた年初の2か月間～互いに「住む世界が違う」様相～)
2019年2月27日	米中貿易協議再延期を受けて～現状と展望の整理～
2019年2月25日	円安リスクの点検～想定外の米経済堅調が招く円安～